

みずかんきょう みずじゆんかん せいぶつたようせい
千葉市の水環境・水循環及び生物多様性の保全・再生の

計画づくりのための調査について(お願い)

千葉市では、川や海、湧き水や湿地などの水環境^(※1)を保全・再生するとともに、健全な水循環^(※2)の維持・回復に取り組んできました。その結果、市域の川や海などの水質は以前より改善しましたが、一方でまだ多くの課題も残されています。

今後は、水と生物・生命のつながりや関係の視点から、水環境をさらに良くし、健全な水循環を維持していくことを軸としながら生物多様性^(※3)を保全し、将来の世代へ引き継いでいくための計画を令和3年度から令和4年度にかけて作っていく予定です。

この調査は、皆様のご意見を新たな計画づくりに活かしていくために行います。

調査のご回答にご協力をお願いします。

用語説明

(※1) 水環境とは

私たちの周りにある、水が関係している場所^(A)の、水の様子です。

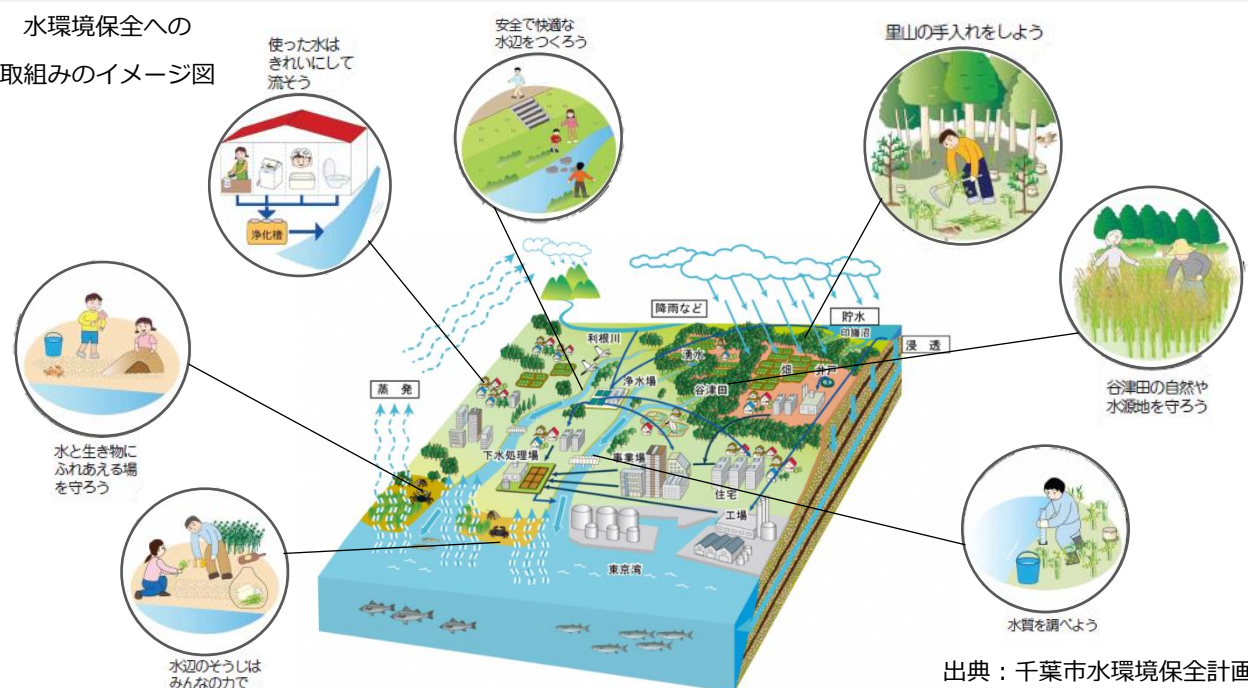
水の様子には、「きれいさ(水質)」、「豊かさ(水量)」、「親しみやすさ」、「水辺の生き物の有無」があります。

水環境を守っていくためには、下図のような取組みのほかにもごみのポイ捨てをしないなど水を汚さない、水を大切に使う、地域の水辺に元々いる生き物に影響を与えるようなペットを放さないことが大切です。

(A)川や川辺、海や海辺、地下水や湧き水、湿地(谷津田^(B))など、水の循環に関係がある台地、森、農地など

(B)台地と台地の間の谷にある田んぼのことで、市では大草谷津田いきもの里など24か所を保全しています。

水環境保全への
取組みのイメージ図



出典：千葉市水環境保全計画

用語説明

(※2) 健全な水循環とは

右の図のように、地上に降った雨や雪は、地下水や川、湧き水となって海へ流れます。そしてこの海の水も蒸発して雲となり、また、雨や雪となって地上に降り注ぐことで地球上の水は循環しています。

健全な水循環とは、地球上で循環する水とその自然な環境が守られている状態をいいます。

水の問題には、川や海が汚され水質

が悪くなること以外にも、森をなくしコンクリートやアスファルトの地表を増やして土地の水を保持する能力を弱めると、大雨で川があふれ、洪水が起きたりします。また、地下水をくみ上げ過ぎると、地下水は減少し、川の水の量も少なくなってしまいます。最近では、地球温暖化の影響で気候が変わり、集中豪雨などの異常気象が増えてきていますが、^{せつでん}節電などの^{しょう}省エネルギー対策やごみの減量など、普段から私たちができるところに取り組むことが、健全な水循環を守ることに大きくかかわっています。

千葉市の水循環の

イメージ図



出典：千葉市水環境保全計画

大草谷津田いきものの里（若葉区大草町）の紹介

いきものの里では、田んぼでの稲作や森林保全活動、生き物調査などをボランティアの方々と行っており、時期によってヘイケボタルやニホンアカガエルなどの生き物を見ることができます。

また、毎月第3日曜日に自然観察会を実施しています。



【アクセス】

モノレール千城台駅から南へ1.2km。モノレール千城台駅からコミュニティバス(いずみバス)左回りで「大草谷津田いきものの里」下車すぐ、又は同バス右回りで「大草台」下車200m。JR千葉駅又はモノレール千城台駅から京成バス「千城台車庫」行で「終点」下車、400m。JR千葉駅から、ちばフラワーバス「中野操車場」行で「大草」下車、北東へ750m。

【駐車場】

9:00～17:00(4/1～10/31)
9:00～16:30(11/1～3/31)
※駐車台数が少ないため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

【お問い合わせ先】

千葉市環境局環境保全部環境保全課
〒260-8722 千葉市中央区千葉港1番1号
TEL:043-245-5195 FAX:043-245-5553
E-mail: kankyohozen.ENP@city.chiba.lg.jp

※大草谷津田いきものの里の詳細や市内その他の谷津田等の情報は環境保全課ホームページをご覧ください。



大草谷津田
いきものの里



自然観察会



環境保全課

用語説明

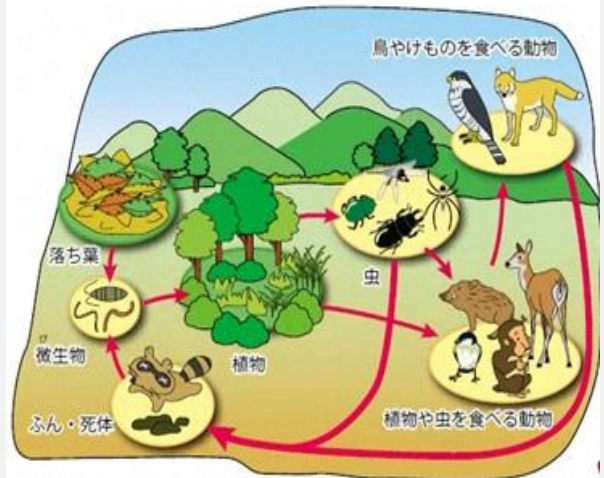
(※3) 生物多様性とは

約40億年前、地球の生命の誕生は水の中でした。そして、この一つの原始生命は、水のおかげで命をつなぎ、進化し、多種多様な生物になりました。

現在、地球上には、まだ知られていない生物を含めると約3,000万種ともいわれるたくさんの生物が生きています。そしてこのたくさんの生物の種は、たくさんの個体、そしてたくさんの細胞、遺伝子からできています。また、たくさんの生物の種によって森や海などの生態系がもたらされました。そしてこの遺伝子や種、生態系は、それぞれいろいろな違いや変化があり、またそれらはさまざまにつながり互いに関係しています。このような生物・生命のにぎわいとつながりの全体を「生物多様性」と呼んでいます。

私たち人間も、生物多様性の一員です。毎日食べる米や野菜、肉や魚から木材や医薬品など、私たちは生物多様性の恵みで暮らし、また、きれいな水や空気、そして豊かな芸術文化、さらには心のやすらぎも、この生物多様性からもたらされています。

生態系の食物連鎖の図



出典：こども環境白書 2006（環境省）

人と自然のかかわりの図



出典：こども環境白書 2016（環境省）

もっと知ろう！

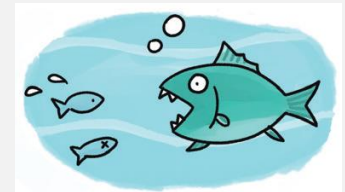
【生物多様性の危機】

人間の活動によって、私たちの周りの生物多様性がそこなわれる状況があります。その原因として、大きく4つあるといわれています。

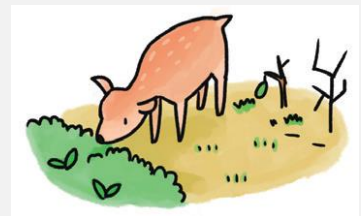
1つ目に、人の観賞や商業利用のために野生の生き物をたくさん採ったり、また住宅などをつくるために森の木を切ってしまうなど、人間の活動は自然にさまざまな影響をおよぼしています。そのため多くの生き物や、それらの生息環境が奪われ、その結果、生態系が破壊され、地球上の各地で生物が絶滅に追いやられています。



2つ目は、人間の活動により、水や空気がよごれて生き物がすめなくなったり、私たちの飲み水の水源も汚れてしまっています。また、このような環境の汚染に強い外から持ち込まれた生き物が増え、元々その地域にいた生き物を食べたり、生息場所を奪ったりしています。



3つ目は、昔は地域の人々に利用や管理されていた谷津田や里山林などが利用されなくなったことで生態系が変化し、そこにいた生き物が別の種類の生き物におきかわっています。その結果として、シカやイノシシなど害獣の生息数が増えすぎて地域の人々の生活に大きな影響を与えています。



4つ目は、地球温暖化によるもので、平均気温が1.5~2.5度上がると、氷が溶け出す量が多く、またその時期が早まったり、海面温度が上昇したりすることによって、生き物の絶滅が20~30%も高まるといわれています。



出典：こども環境白書 2016（環境省）

（参考）千葉市では次のような、生物多様性の保全・再生に向けた取組みを行っています。

- ・ たくさんの人に生物多様性の大切さを知ってもらうこと
- ・ 生物多様性を守るために、ひとりひとりが取り組むことのできる行動の紹介
例えば、生き物を最期まで飼う（途中で飼うのをやめて自然環境に捨てない）、自然環境を保全する活動や観察会などに参加する、環境に配慮した商品を購入する、地元の食材を味わうなど
- ・ 生き物の生息環境となる場所（谷津田、里山、森林など）を管理すること
- ・ 貴重な動植物を保護すること（絶滅危惧種で市の鳥でもあるコアジサシの保護など）
- ・ 生態系や人などに被害を与えるアライグマやカミツキガメなどの対策をすること
- ・ 水環境を保全すること（川や海辺などでの清掃活動や水質調査など）
- ・ たくさんの人が自然や水辺にふれあう体験の場をつくること（自然観察会などの開催）
- ・ 川や海にいる生き物や水質などを定期的に調査すること
- ・ 谷津田などの保全に取り組んでくれるボランティアの方々への支援 など